

# 週間市場レポート (2022年1月10日~1月14日)

## 1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/1/7	先週末 2022/1/14	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		28,478.56	28,124.28	▲ 1.24 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,995.68	1,977.66	▲ 0.90 ↓
ダウ工業株30種平均 (ドル)		36,231.66	35,911.81	▲ 0.88 ↓
S & P 500種指数		4,677.03	4,662.85	▲ 0.30 ↓
ナスダック総合指数		14,935.90	14,893.75	▲ 0.28 ↓
ユーロ・ストックス50指数		4,305.83	4,272.19	▲ 0.78 ↓
S & P / A S X 300指数		7,456.85	7,398.51	▲ 0.78 ↓
上海総合指数		3,579.54	3,521.26	▲ 1.63 ↓
MSCI AC アジア (除く日本)*		961.62	980.81	2.00 ↑
東証REIT指数		2,023.64	1,994.50	▲ 1.44 ↓
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		940.47	926.20	▲ 1.52 ↓
A S X 300 REIT 指数		1,724.00	1,657.90	▲ 3.83 ↓
グローバルREIT (除く日本)*		222.05	219.94	▲ 0.95 ↓
日本10年国債 (%)		0.140	0.143	0.003 ↑
米国10年国債 (%)		1.762	1.784	0.022 ↑
ドイツ10年国債 (%)		▲ 0.043	▲ 0.046	▲ 0.003 ↓
英国10年国債 (%)		1.178	1.150	▲ 0.028 ↓
ドル/円		115.56	114.19	▲ 1.19 ↓
ユーロ/円		131.29	130.35	▲ 0.72 ↓
英ポンド/円		157.00	156.16	▲ 0.53 ↓
豪ドル/円		82.97	82.35	▲ 0.74 ↓
フィラデルフィア半導体指数		3,796.32	3,900.61	2.75 ↑
WT I 原油先物 (ドル)		78.90	83.82	6.24 ↑
CRB 指数		237.90	245.43	3.17 ↑

出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成  
 ※現地通貨ベース \* ▲はマイナスを表します。

## 2) 日本の株式・債券市場

### ≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落となりました。米国の早期の金融引き締めへの警戒感から、週初は金利上昇時に割高感の意識されやすい高PER（株価収益率）銘柄を中心に売られ下落しました。その後、パウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長の議会証言を受け、金融引き締めへの過度な警戒感が後退し米長期金利が低下すると、ハイテク株を中心に見直し買いが入りました。FRBのブレイナード理事が米上院の公聴会で、インフレに懸念を示すとともに早期利上げの可能性を示唆すると、再び米金利の上昇懸念が強まり、週末にかけて下落しました。なお、国内で新型コロナウイルスの新規感染者数が急増していることも、相場の重荷になりました。



≪ 債券 ≫

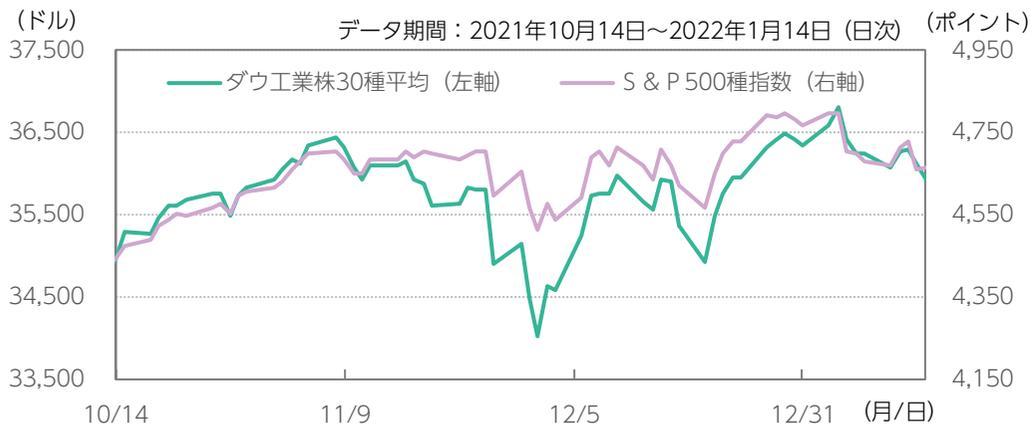
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。米金融政策の正常化が前倒しされるとの観測から週初は上昇したものの、パウエルFRB議長の議会公聴会での発言で、米金融引き締めへの過度な警戒感が後退すると、国内金利も低下しました。週末は、日銀が物価上昇率2%目標の達成に向け政策変更の議論を進めているとの報道を受け、上昇しました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

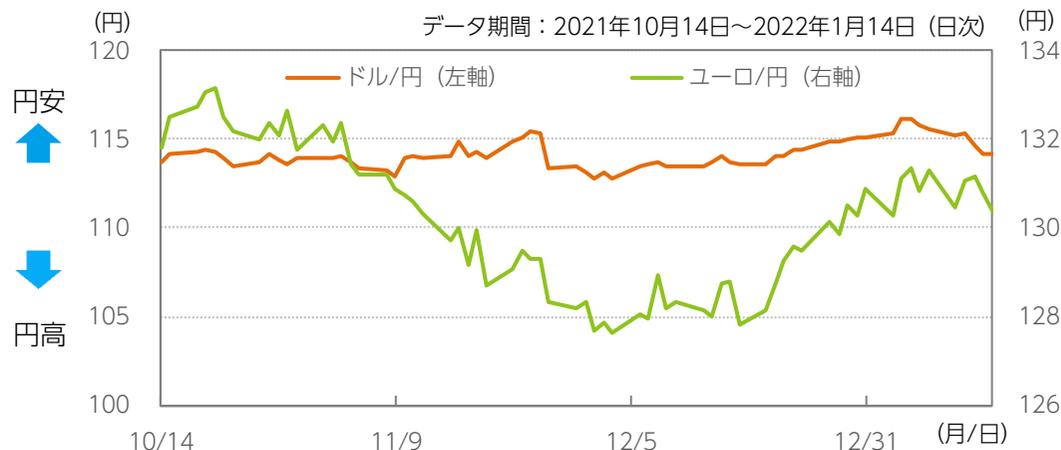
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で小幅に下落となりました。FRBによる早期の利上げ観測が高まる中、議会公聴会でのパウエルFRB議長の発言が、想定よりタカ派（金融引き締め推進派）的な内容でなかったことや、2021年12月の消費者物価指数の上昇率が市場予想と概ね一致したことなどから上昇しました。FRB高官が高インフレに懸念を示したことや軟調な米経済指標の結果を受け、週末にかけて再び下落しました。



出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。パウエルFRB議長の議会公聴会での発言を受けて、米金融引き締めへの過度な警戒感が後退し、週末にかけて日米金利差縮小を意識した円買い米ドル売りが進行しました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、国内外でオミクロン株による新規感染者数が急増していることや、FRB高官の発言で早期利上げの可能性が改めて意識されたことなどから下落しました。

米連邦公開市場委員会（FOMC）参加者の中ではハト派（金融緩和推進派）として知られるブレイナード理事が、13日（木）の米上院の公聴会においてインフレの長期化に警戒感を示し、3月のFOMCにおいて利上げに踏み切る可能性を示唆しました。株式市場では今後の米金利上昇を見据え、金利上昇時に割高感の意識されやすいグロース株やハイテック株などを中心に売られています。

先週末より米企業の10～12月期の決算発表が始まり、今週は米大手金融機関の決算発表が集中しています。今週の株式市場は決算結果を手掛かりに、個別銘柄が物色される展開となりそうです。

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。
- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要性が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性などがあります。

## &lt;設定・運用&gt;



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>